

火災から大切な命を守るために…

住宅用火災警報器を設置しましょう

「消防法」および「ひたちなか・東海広域事務組合火災予防条例」により、全ての住宅に火災警報器の設置が義務付けられています。

村内の設置状況は約67%！

平成24年11月に村内の少年消防クラブ員(小学6年生)431人の家庭を対象にアンケート調査を実施したところ約92%の方が、住宅用火災警報器の設置が義務化されたことを認識していました。設置状況は約63%で、義務化されていない台所にも設置していると答えた方が約40%いました。また、平成24年に各種講習会等の参加者で村内在住の方を対象に行った調査と合わせると959人のうち642人の方(約67%)が住宅用火災警報器を設置していました。

住宅火災による死者をなくすためにも、まだ設置していない家庭は、一日も早い設置をお願いします。



▼住宅用火災警報器により功を奏した事例

住宅の2階で就寝中に、寝具がヒーターに接触して出火。住宅用火災警報器の警報音で目が覚め、階段を下りて玄関から避難した。やけどを負ったものの命に別状はなかった。

▼点検をしましょう！

電池が切れたときは、音声案内もしくは「ピッ…ピッ…」という音が一定の間隔で鳴ります。その際は新しい電池に交換してください。また、メーカーによって異なりますが、本体の寿命はおおむね10年です。設置後10年が経過したら、新しい警報器に交換することをお勧めします(取扱説明書を参考に確認してください)。

▼消防職員を装った訪問販売にご注意ください！

県内で、消防職員を装った不適切な訪問販売が発生しています。消防職員は消火器や住宅用火災警報器の訪問販売は行っていません。不審な場合は、必ずはっきりと断りましょう。

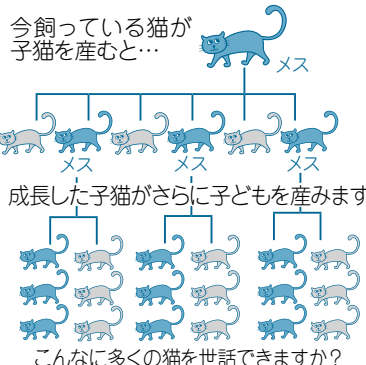
問い合わせ▼ひたちなか・東海広域事務組合消防本部予防課(☎271-0735)

猫は増え続けます 責任を持って飼いましょ！

1匹のメス猫が数え切れないほどに…

猫は生後7か月ごろから妊娠し、年3回ずつ子猫を産むことができます。交尾するとほぼ100%妊娠し、生まれた子猫の約半分はメスなので、避妊手術を行わないと「ネズミ算」式に増えていきます。

猫なのにネズミ算？！



避妊・去勢の手術をしましょう

平成23年度は2792匹の猫が茨城県動物指導センターに持ち込まれて処分されています。猫は室内で飼うということは飼い主としてのマナーですが、万が一外に出てしまったときのために責任を持って飼う猫に避妊・去勢手術を受けさせましょう。

安易な餌やりはやめましょ

野良猫に餌を与えている方にも、飼い主と同じ責任があります。

繁殖した猫が近所へ迷惑を掛けるだけでなく、交通事故等で死亡する不幸な猫を増やしてしまします。安易な餌やりはしないで、餌を与える場合は飼い主として責任を持って室内で飼うとともに、避妊・去勢手術を行いましょう。

餌やり防止啓発看板を配布します



村には「庭」フンや尿をされて臭い、処理に困っているなど猫による被害の相談が寄せられています。猫は、餌を食べられる場所に集まって繁殖します。地域で餌やりを防止するため、希望する班(常会)に啓発看板を無料で配布します。

◆対象 村内の班(常会)

◆配布開始日 2月15日(金)

◆申し込み 代表者が看板の必要枚数(各世帯1枚が目安)を取り

まとめの上、環境政策課(役場行政棟4階)へお越しください。※在庫があればその場で、なければ後日お渡しします。

◆問い合わせ 環境政策課環境

保全担当(☎282局1711 内線1451)